

## ■ Open Source Policy and Promotion of IT Industries in East Asia

今年度オープンソースカンファレンスのテーマは「オープンソースと政府・自治体」でしたが、オープンソースカンファレンス島根の前日、11月26日に島根大学でも「Open Source Policy and Promotion of IT Industries in East Asia」をテーマにしたセミナーを開催しました。セミナーには東アジア地域における（日本、中国、韓国、ベトナム）の政策担当者や研究者、さらにアイルランドやアフリカのガンビアからも研究者が参加し、講演、ディスカッションを行いました。各国ともオープンソースの採用と、これを自国の産業振興にどう結びつけるかが課題で、活発な議論が行われました。そしてオープンソースの国際的な研究を今後も進めていくことが確認されました。今後もこういったセミナーを島根大学やオープンソースラボで開催していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（島根大学 野田哲夫）

## ■ OpenSourceConference 2010 Shimane

去る2010年11月25日、松江テルサでオープンソースカンファレンス2010 Shimaneが開催されました。島根での3回目の開催となり、当日はおよそ200名あまりの人が参加されました。

オープンソースカンファレンスとは、北は北海道から南は沖縄まで全国で開催されているオープンソースの今を伝えるイベントであり、中国地方では島根県が唯一の開催地であることから、他県からの展示や参加も多数あり、参加者にとって貴重な情報交換の場となったように感じました。

ライトニングトークではドラ娘の登場もあり大盛況のうちに終了しました。

私は今回が初参加でしたが、ライトニングトークの司会をやらせて頂く事になり、精一杯会場を盛り上げる事でオープンソースのメッカとしての底力をみせられたと思います。

今回、参加できなかった方は是非とも来年参加し、会場の雰囲気を直接感じとってみてください。

（小数賀）

## ■ しまね情報分野研究シーズ発表会

2011年3月8日に、くにびきメッセにおいて、「しまね情報分野研究シーズ発表会」が開催されました。島根大学、松江高専、島根県、財団法人しまね産業振興財団の4機関主催による開催、しまねOSS協議会も後援団体の一つとして参画しました。

当日は、大学と高専の最新の研究成果や情報関連分野の取り組みについて、合計9件の発表、そして24件の展示がありました。オープンソース関連についても、Rubyで開発された大学評価情報データベースの発表（島根大学・高清水先生）や「外国人旅行者向け食事サポートシステム「べらぐる」」の発表（松江高専・川上さん）等、参加者から多く関心を集めていました。また、企業側から、しまねソフト産業ビジネス研究会の吉岡代表から、ソフト系IT企業のニーズについて発表があり、大学・高専におけるRubyやWeb関連教育のさらなる必要性や産学連携に対する期待についてお話をされました。

発表会には110名の参加者を集めて大変盛況に開催されました。

産学連携はまず何よりも最初の出会い、そのためのきっかけづくり、コミュニケーションが大事であり、このような発表会を通じてまた新しい動きに繋がっていくものと思います。当方も、企画者の一員として、情報分野における産学連携を積極的にサポートしていきます（丹生）

## ■ 編者後記

先日の東日本大震災において、被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。

私事ではありますが、関東以北に多くの知人がおり、被災地とは距離のある島根でありながら人ごととは思えない日々を送っております。きっと同じようにご家族や親戚、知人が被災されたことで、心を痛めておられる方も多いことと思われます。

一日でも早い被災地の復興を願ってやみません。（きむら）

このニュースレターはOpenOffice.orgで作られています。



第九号(2011.04.08)



## ■ OpenOffice.org講習会

しまねOSS協議会では、株式会社マツケイより講師をお招きしてOpenOffice.org講習会を開催しています。

2010年4月から始め2011年2月で通算6回目となりました。最初は不慣れだったスタッフですが、今では受講者のフォローもしっかりできるようになり、皆様から大変よろこんで頂けるようになりました。

ここで知らない方のために、OpenOffice.org講習会について説明します。

まず、OpenOffice.orgとは無料(フリー)版のマイクロソフトオフィス(以下MS Office)と言ったようなソフトです。全世界の有志(ボランティア等)によって日々改良されています。無料で使用できるというメリットから、今では多くの自治体がこのOpenOffice.orgを採用しています。我々もこのOpenOffice.orgの良さを皆様知って頂こうと講習会を開催しています。OpenOffice.orgは、MS Officeと同様にいくつかのアプリケーションが一つにまとまって提供されています。

「Writer」というのはMS Officeでいう「Word」にあたり、文書を作成するワープロソフトです。

「Calc」はMS Officeの「Excel」にあたり、表計算を行うソフトです。

また、「Impress」はMS Officeの「PowerPoint」にあたり、プレゼンテーション用のソフトです。

現在は「入門編」と題して、この「Writer」「Calc」「Impress」についての講習を行っています。これまでOpenOffice.orgを使用したことのない皆様に学んで頂けるような簡単な内容となっておりますので、お気軽にご参加ください。

今年は「入門編」に加え、Calcについて「初級編」を企画しています。「入門編」では主に機能全体の紹介を行っていますが、「初級編」では取り扱う機能を絞って詳しく説明します。「初級編」も「入門編」と同様に、これまでOpenOffice.orgを使用したことのない皆様でも理解できるような内容となっております。

こちらの方もご参加頂ければと思います。

本講習会の開催については、松江市報や協議会ホームページ等でご案内しておりますので、内容をご確認の上、協議会事務局の方までE-mail、FAX等でお申し込みください。

皆様のご参加をお待ちしております。（倉橋）

## ■ 会員企業紹介(第5回)

株式会社 ワコムアイティ  
代表取締役社長 今岡 克己 様



- 早速ですが、御社におけるOSSの取り組みについて教えてください。

現在、Rubyを扱う技術者が本社に4人、東京に2人います。東京では、ウェブアプリケーションを中心に、新規案件はすべてRubyを用いて開発しています。島根県の本社では、数年前から「しまね観光ナビ」というウェブサイトの制作・保守も担当しています。県内で最もアクセスの多いサイトの一つです。今年4月にオープンする障がい者用の観光系サイト「バリアフリーツアー」をRubyによって構築しました。その他、製造業のシステムなどもRubyで提供しています。

また、昨年9月から稼働している志布志アグリネットでは、フクオカRuby大賞にもエントリーしています。

- 志布志アグリネットとは、何ですか？

鹿児島県志布志市で行われているアグリコミュニティ事業です。従来、農業技術は、長年の勘や経験によって培われてきました。農作物は種類によって、適した栽培条件が違います。いつ種を播き、いつ肥料を播けばいいのかといった効果的な栽培技術を後継者へ伝えることは大変難しいものです。そうした匠の技をITで再現するため、土中水分や気温を管理したり、日照積算をしたりする気象サーバをRuby, Silverlightによって開発し、経験や勘による知識の蓄積をデータ化することによって、農家と消費者が共有できるようにしました。また、リアルタイムで牛や農作物の状態を確認できるようにしました。このシステムは次のURLで公開しています。[ <http://www.shibushi-agri.net/PublicMonitor> ]

- 農業分野でこれほどまでに先進的なことをしておられるとは…。すごく面白いですが、農業分野へ力を入れ始めたきっかけは何ですか？

岡山の営業所に、Tさんという新見市在住の社員がいます。新見市はITインフラを整備している頃でもあり、通勤が大変なTさんには在宅で働いてもらおうということになりました。その頃、日本で有数の黒毛和牛の産地である新見市の市長から牛を携帯電話で飼えないだろうか？という打診がありました。そこで平成19年から3年間、総務省の事業を受託し牛の分娩をリアルタイムで見守るシステムを開発しました。それをきっかけに畜産業のIT化へ当社も力を入れ始めました。

- 携帯電話で牛を飼う…。素敵な響きですね。

このノウハウを生かし、日本一の牛飼育量を誇る鹿児島県でも畜産業支援に乗り出しました。近年、口蹄疫が流行り、生産地への出入りが制限され、サービスの提供ができない事態が発生しました。困っていた時、鹿児島県は牛の生産だけでなく、お茶の生産でも有名であることを知り、お茶の栽培では霜の被害により農家の人が困っていると聞きました。そこで畑の環境センシングに取り組み始めました。狭いエリアでの微気象をセンサーで察知しデータを蓄積する仕組みです。この仕組みが元となり、志布志アグリネットへとつながっています。果物・野菜にそれぞれ固有の栽培暦があり、それをデータとして管理する場合、それぞれに対応したアプリケーションが必要となります。多様なアプリケーションを開発するためには、OSSが必要となります。

鹿児島の場合、多くの若い人が大規模農業を行っています。高齢化の進む島根の農業イメージからすると意外でしょう？若い人達がいれば、農業分野でのIT利用にますます拍車がかかるでしょう。

- 多方面でビジネスを展開しておられる今岡さんですが、現在に至るまで、どのような人生を歩んでこられたのか、どのような思いをもって活動しておられるのか、是非ともお伺いしたいと思います。

高校卒業後、大学で化学を専攻し、大学卒業後は、有機合成、医薬品を扱う企業で研究職をしていました。様々な調べ事をするためにPCによる文献検索方法を学ぶ過程でPCに興味を持ちました。38歳まで東京で働いた後、島根に帰郷しました。当時はニフティ、くまびきネットなどが普及し、一般家庭でも徐々にPCが使えるようになり始めた時期でした。平成5年から仕事の傍ら、仲間たちと廃棄PCに通信ソフトをインストールするボランティアを開始し、県内に500人ものパソコンボランティアが集まりました。それが母体となり、現在のNPO法人プロジェクトゆうあいが出来上がりました。メーカーはPCを売上げた後、長期的にサポートすることは難しいのですが、ユーザー側としてはメーカーに逃げられると困るので、メーカーとは違う論理でPCの普及に携わるパソコンボランティアの必要性を感じています。

同じような思いから、社内では、PTAや町内会などでの活動に従事している社員に手当を出す「もう一役運動」を実施しています。地域社会へ貢献する雰囲気を社内でも大切にしたいと感じています。

(インタビュー：沼田)

## ■ 山陰IT Pro勉強会(SITW)の紹介



皆さんこんにちは。山陰ITPro勉強会の代表として活動しております岩石睦です。

「山陰ITPro勉強会 (Sanin ITprofessional Workshop)」、略してSITWと呼びます。発音は「シチュー」で、ロゴマークはシチューを煮込む鍋をイメージして作成されています。

SITWは、主に山陰地区のITに携わる技術者を中心に、立場や業務内容、組織を超え、自由で、対等に語り合うことで、自らの業務に対するモチベーションの糧になることを目指して開催しております。

松江オープンソースラボにて3ヶ月に1度を目標に勉強会を開催しております。

第1回目のSITWは、2009年1月に開催いたしました。その後、オープンソースやセキュリティなどをテーマの中心として、これまで10回の定例開催と、3回の「番外編」を不定期に開催いたしました。

[ 参考 : <http://sitw.techtalk.jp/sitwinfo> ]

3月5日(土)に開催した第10回勉強会では、株式会社ラック取締役の西本逸郎様をお迎えし、日頃の業務の中でご経験された様々な話題や事件から、これからの情報セキュリティへの考え方の変化予想などについて、お話を伺うことができました。

これからも定期的に開催していきますので、ご都合がよろしければ是非ご参加ください。

[ ML:<http://groups.google.co.jp/group/sitw2009> ]

## ■ 松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト

しまねOSS協議会は、松江市と共催で3回目となる松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト2011を開催しました。オープンソースのさらなる利用拡大を目的として開催したこのコンテストには、全国から36件の応募をいただきました。

2月19日(土)に開催した最終審査会にて、書類選考で勝ち残った8組(ビジネス活用部門4組、学生部門4組)が最優秀賞を目指してプレゼンテーションを行いました。どのプランも実現に向けてアイデアを練った素晴らしいものばかりで、発表者のみなさんは熱く情熱的にプランを提案されました。

この熱いプレゼンを受けて、審査委員さんからは、かなり具体的な質問やプラン実現についてのアドバイスがあるなど、会場は一種の緊張感のある盛り上がりを見せました。初めて土曜日に最終審査会を開催し、事務局としては少し心配事などもありましたが、会場は立見がでるほどの盛況で、ご来場いただいた皆さまにも最終審査会を盛り上げていただきました。

コンテストの結果は、ビジネス活用部門にて松江商業&システム工房エム協同企画さんの『Android端末で持ち歩くデジタルカタログ』、学生部門では松江商業高校の片寄千里さんの『心に響くonly your hands』が最優秀賞に輝きました。松江商業高校さんはダブル受賞で「松商パワー」を存分に発揮された結果となりました。

また、今回は㈱インターネットイニシアティブ様から急遽、特別協賛をいただくことになり、受賞者8組全てにインターネットクラウドサービスの1年間利用権をいただき、受賞者のみなさんには嬉しいサプライズとなりました。

来年もたくさんご応募いただきいい感じのコンテストが開催できるよう、また、素晴らしい協賛がいただけるよう事務局もがんばりたいと思います(おほほ)。

(川上)

